

H2 ブロッカー・ファモチジンが著効した肩石灰沈着性腱板炎の2例

○^{たしまこうすけ}田島康介, 浦部忠久, 谷島 浩,
吉川寿一, 樋野忠司, 三戸一晃

足利赤十字病院整形外科

【はじめに】近年 histamine H2 receptor antagonist (以下 H2 ブロッカー) の一つであるシメチジンが肩石灰沈着性腱板炎に有用であるという報告が散見されるようになったが、今回我々はファモチジン (商品名: ガスター) が本症に有効であった2症例を経験したので報告する。【症例1】60歳, 女性。1週間前からの夜間に増強する右肩関節痛にて初診。単純 X 線写真上石灰化病変を認めた。1週間の NSAIDs の投与や局所麻酔薬で疼痛の改善がみられなかったが、ファモチジン 40mg/日の追加投与で急速に疼痛の改善し、単純 X 線写真上石灰化病変の完全な消失を認めた。【症例2】75歳, 男性。2年前より左肩石灰沈着性腱板炎で通院中。疼痛のコントロールは不良で、定期的な局所麻酔薬注射と NSAIDs, 外用薬の処方を受けていた。筆者が担当医となり、ファモチジン 40mg/日を追加処方したところ急速に疼痛が改善し、現在は外用薬のみで良好に疼痛コントロールされている。単純 X 線写真上石灰化病変の縮小や消失は見られなかった。【考察】シメチジンが石灰沈着に及ぼす作用機序は現在のところ明らかになっていないが、ファモチジンにおいても同様に本症の疼痛に対し有効であり、急性期の症例においては単純 X 線写真上石灰病変の消失を見た。本症に対して侵襲的治療を行う前にまず、H2 ブロッカーの投与も考慮するべきであると思われた。

Cannulated screw による鎖骨骨折の治療経験

○^{まるやまはるひさ}丸山晴久¹, 成田哲也¹, 赤石文洋¹,
萬歳祐子¹, 須藤賢太郎¹, 吉澤隆明¹,
伊藤博元²

¹日本医科大学付属第二病院整形外科, ²日本医科大学大学院整形外科

鎖骨骨折は日常診療において、しばしば経験する骨折で、一般的には保存的治療が行われている。しかし、患者の早期社会復帰や外固定の苦痛からの開放のためには、局所の侵襲が少なく、固定力に優れた内固定材による観血的治療が良いと考えられる。我々は鎖骨体部骨折に対して、screw を用いて手術を施行した新鮮例6例の短期成績を調査し、その有用性、問題点を検討したので報告する。症例は6例で男性5例、女性1例。平均年齢37.1歳 (25歳~43歳)。受傷機転は交通事故4例、転倒1例、スポーツ外傷1例であった。全例 ACE 社製 5.0mm cannulated cancellous lag screw を用いた。6例中5例は良好な固定性が得られ、疼痛も改善、早期より社会復帰した。骨癒合までの期間は平均3.5カ月 (2~5カ月) であった。脳挫傷を合併した患者の1例は術後、患肢の安静が守れず screw が変形をきたし、骨癒合が得られなかった。Cannulated screw は Kirschner 鋼線固定後にみられるような骨内での移動による刺入部の皮膚刺激症状の問題はなく、第3骨片を伴う症例においても良好に骨癒合が得られ、粉碎の強い症例や骨粗鬆症のある症例を除いて適応を選べば、有用な方法であると思われる。